

## インド無人探査機が月面着陸に成功、旧ソ連・米・中に続く世界4番目の快挙 月の南極付近への着陸は世界初！

### パワフル・インド（政策関連）～更に進化を続けるインドの宇宙開発力～

#### ▶ 無人探査機の月面着陸に成功

2023年8月23日、**ISRO**（インド宇宙研究機関）は、インドの無人の月面探査機「チャンドラヤーン3号」が月への着陸に成功したと発表しました。月面への無人探査機の着陸に成功するのは世界で4か国目であり、月の南極付近への着陸の成功は世界で初めてです。チャンドラヤーンはサンスクリット語で「月の乗り物」を意味します。

8月20日には、ロシアが打ち上げた無人月探査機「ルナ25号」が制御不能になり、月面に墜落したばかりでした。旧ソ連時代以来およそ半世紀ぶりの月面探査が失敗に終わっています。月の南極付近に着陸させることができれば世界初の快挙となるはずでしたが、その栄冠をインドに譲ることとなりました。

※一般的に、月面着陸は北半球の比較的平らな地形が多い所が選好されます。南極域は、地形の凸凹が多く、着陸は難しいとされています。



チャンドラヤーン3号が撮影した月面  
画像出所：ISRO

#### ▶ 諸外国との協力関係

**JAXA**（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構）は**ISRO**とパートナーシップを結び、月極域で水資源を本格的に調べるプロジェクト「ルペックス(LUPEX)」に取り組んでいます。月の北極や南極では太陽高度が低いため、クレーターの内部などの周囲より低い場所に長時間、日光が当たらない「永久影」と呼ばれる領域が存在します。これらの場所では、水が状態変化せずに月表面近くに残っている可能性が高いことが分かってきました。ルペックスでは2025年度にも南緯が80度超の南極域に探査機を送り込むことが計画されており、日本はロケット打ち上げと月面探査車を担当、月面に探査車を届ける着陸機をインドが開発する予定です。

一方、**NASA**は2023年6月に、インドが「アルテミス合意」へ署名したことを発表しました。アルテミス合意は、**NASA**が推進する有人月面探査計画「アルテミス計画」を念頭に、宇宙探査・利用を行う際の諸原則に関して各国の共通認識を示した宣言であり、2020年10月にアメリカ、オーストラリア、カナダ、日本、ルクセンブルク、イタリア、アラブ首長国連邦、イギリスにより署名されました。インドの署名は、アジア太平洋地域で存在感を強めるインドを「西側陣営」の宇宙開発に大きく引き寄せることになる可能性があるとの見方もあるようです。

なにはともあれ、インドの快挙に拍手を送りたいと思います。

## ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会